

一次の文章を読んで、後の問いに答えなさい。

自分だけ気づいていないときがある。服を裏表逆に着ていた。チャックが開いていた。鼻毛が出ていた。歯に青のりがついていた……。実際どれも経験したことがある。後で気づいたときや、人から指摘されたとき、もう顔が真っ赤になってしまふ。穴があつたら入りたくなくなる。そんなことなら、いつそ知らないほうがいいのだろうか？へ X 〓 という。裸の王様も、「王様は裸だ」といわれるまでは満足だった。人生にはそんなことがたくさんあるのだ。知らずに過ごせば幸せだったことが。

でも、そんなわけにはいかないのだ。それなら赤ちゃんのまま生きたほうがいいことになる。赤ちゃんは何も知らないのだから。あの無邪気な笑顔はそこから来ている。ただ、それでは人生は面白くない。人生は知るから楽しいのだ。

自分の無知を知ったとき、一瞬は恥ずかしくて死にそうになるが、それはあくまで一瞬であつて、すぐ平気になる。それ以上に、自分が新しいことを知ったことに価値があるのだ。恥は新しいことを知るための代金のようなものだ。授業料といったほうがいいかも。

どんどん恥をかいて、知を増やしていくべきだ。無知であるこそ恥ずかしいことなのだから。とはいえ、なかなか恥はかきたくないものだ。いくら効用があるといつても、みんな抵抗があるだろう。いったいどうすれば、気にせず恥がかけられるのか？

そこを参考になるのがこの諺。へ Y 〓。普段なら恥ずかしくてできないことも、旅先ならできてしまふ、やってしまうという意味だ。これはいい意味にも悪い意味にも使われる。悪い意味だと、旅だと思って無責任なことをするなという文脈で使われる。ここではいい意味にとらえたい。つまり、旅先なら誰も自分のことを知らないのだから、恥をかいても大丈夫、大胆に振る舞えということだ。

これを応用して人生全体を旅ととらえればいいのだ。考えてみれば、人生は長い旅のようなものだ。出逢いもあれば別れもある。そうとらえれば、長い人生、別にここで恥をかいたところで、一生肩身の狭い思いをするということもないだろう。

そもそも、恥をかいて覚えたことは絶対忘れないものだ。みんなの前で間違えたとか、ずっと間違つたまま使つてたとか。恥とは、体に空いた穴のようなもので、そこを埋めても形が残るのだ。だから忘れない。古傷と共に、そのときのことを覚えていいるのと同じなのだ。そのことを 1 に知っているの、僕は 2 に恥をかくことにしている。名誉の負傷をするのだ。知のために。そしてその古傷を勲章にする。世の中には、人に恥をかかせちゃいけないという風潮がある。恥が悪のようにとらえられているからだ。とすると、恥をかく機会が減つてしまふ。これはもったいないことだ。大事なものは、恥をかかせないことではなくて、恥をかくことが過剰に人の尊厳を傷つける結果にならないようにすることではないだろうか。

恥をかかれないために、学校や職場に来なくなったり、もつと悪い結果を生むこともある。それは問題だ。せっかく恥のおかげで知を得られるのに、副作用のほうが大きすぎるからだ。だからこそなおさらいいのだ。恥をかくことは知のためにプラスになるという共通理解をもとうと。哲学の世界ではこれはスローガンですらある。ソクラテスが唱えた無知の知がそれだ。

彼はいった。知つたかぶりをするより、知らないといったほうが賢くなれると。現にソクラテスは哲学の父として、賢者の象徴になっている。二千数百年の歴史を誇るこの偉大な学問、哲学は、恥をかくことで生まれたのだ。

(小川仁志『小川仁志の〈哲学思考〉実験室』による)

問一 ― 線部1「恥は新しいことを知るための代金のようなものだ」とはどういうことですか。解答らんに合わせて、問題文中から十二字でぬき出して答えなさい。

問二 ― 線部2「いったいどうすれば、気にせず恥がかけられるのか？」とありますが、筆者はこれに対してどのような提案をしていますか。説明した次の文の I 〓 II 〓 に入れるのに適当な言葉を、問題文中からそれぞれ十字以内でぬき出して答えなさい。

「人生を I 〓 であると考えて、 II 〓。」という提案。

問三 ― 1 〓 2 〓 に入る言葉の組み合わせとして、最も適当なものを次のア～カから選び、記号で答えなさい。

ア	1 感情的	2 習慣的	イ	1 感情的	2 積極的	ウ	1 感情的	2 功利的
エ	1 体験的	2 習慣的	オ	1 体験的	2 積極的	カ	1 体験的	2 功利的

問四 ― 線部3「名誉の負傷」とありますが、恥をかくことがなぜ「名誉」なことなのか。理由を説明した次の文の 〓 に入れるのに適当な言葉を、問題文中の言葉を用いて、十字以内で答えなさい。

恥をかくことは、 〓 を得たことを意味するから。

問五 ― X 〓 ・ Y 〓 に入ることわざを答えなさい。

問六 ― 線部a「無責任」とありますが、次のア～キのうち、頭に「無」をつけられるものをすべて選び、記号で答えなさい。

ア 開発 イ 自由 ウ 造作 エ 使用 オ 気力 カ 公開 キ 完成

問七 ― 線部b「肩身の狭い」とありますが、次の1～3の意味になる言葉を「肩」を用いて答えなさい。

- 1 重い責任や負担から解放されて楽になる。
- 2 がっかりして力がぬける。
- 3 好意をもってひいきする。

問八 ― 線部c「プラス」とありますが、これは「ス」で終わる外来語です。次の1～6の文の () に入れるのに最も適当な「ス」で終わる外来語を、後のA～Fから選び、記号で答えなさい。

- 1 自然の豊かな公園は、都会の人々の心に安らぎをあたえる () だといえるだろう。
- 2 いくら高い服でも、選ぶ人の () が悪いと、あまりいいものには見えない。
- 3 平日昼間と比べると、 () 街の休日は、ほとんど人通りがない。

- 4 報道された情報の()は明らかにされていない。
5 気楽に参加した討論会だが、予想外に()な内容でおどろいた。
6 ()の効いた皮肉は会話の中で有意義な役割を果たす。

A オアシス B オフィス C シリアス D スパイス E センス F ソース

二 次の1～4の言葉を用いた文として、正しいものをそれぞれ後のア～オから一つ選び、記号で答えなさい。

- 1 足が出る
ア 算数や理科は得意だが、国語にはなかなか足が出ない。
イ 学校に慣れ、勉強も足が出てきたと先生にほめられた。
ウ 一年生部員の中で、A君の実力はひとつ足が出ている。
エ 朝早くから畑に出て、足が出る働きぶりに感心した。
オ みんなが予定より多く食べたので、旅行代は足が出た。

- 2 口をつぐむ
ア みごとな演技に、審査員は口をつぐんで絶賛した。
イ 前もって口をつぐんでいたのとは話は早くまとまった。
ウ 五年前の事件について、関係者は口をつぐんだ。
エ うっかり口をつぐんで、秘密を打ち明けてしまった。
オ 目上の人と話すときは、口をつぐむのが礼儀だ。

- 3 手をこまぬく
ア たまの休みには、しっかり手をこまぬくことも必要だ。
イ 友達が困っている、手をこまぬいているだけだった。
ウ この料理は、さりげなく手をこまぬいて作っている。
エ 手をこまぬくことを覚えると、何事も上達しない。
オ そこに気がつくとは、さすが手をこまぬいているね。

- 4 目が高い
ア つい目が高くなって、にせ物をつかまされてしまった。
イ そんな目が高い言い方をすると、友達にきられるよ。
ウ かれは目が高い性格で、他人の失敗を絶対見逃さない。
エ そのバイオリンを選ぶとは、君はなかなか目が高いね。
オ いい物だと思ったが、値段を聞いて目が高くなった。

三 次の1～4の意味を表す三字熟語を、後の「語群」から三字を選び、組み合わせで答えなさい。ただし、同じ漢字はくり返して使えません。

- 1 顔の表情をいろいろに変えること。
2 美しい顔だちの男性。
3 この世とは思えないほどすばらしい場所。
4 季節の感じをよく表しているものごと。

〔語群〕 詩 二相 地 天 枚 百 風 物 別 目 面

四 次の1～4の言葉に近い意味を持つ四字熟語を、後に示す「四字熟語の一部」から選び、それを完成させて答えなさい。ただし、同じものはくり返して使えません。

- 1 大風呂敷を広げる
2 口をすっぱくする
3 しり馬に乗る
4 風前のともしび

〔四字熟語の一部〕

再 再 針 棒 絶 絶
馬 東 付 雷 油 大

五 次の1～6の俳句の[]に入れるのに最も適当なものを後のア～カから選び、記号で答えなさい。ただし、同じものはくり返して使えません。

- 1 愛犬のお守りも受け [] 若島登美子
2 犬連れし夜道の中の [] 山田露結
3 犬の留守狙いて小屋へ [] 斉藤友栄
4 犬の子やかくれんぼする [] 小林一茶
5 放たれて犬風となり [] 高橋笛美
6 [] 犬沈没し躍り出づ 川端茅舎

ア 門の松 イ 寒鴉 ウ 芒原
エ 初詣 オ 虫の声 カ 雪の原

六 「遅れを取る」のように、「くを取る」という表現には、さまざまなものがあります。次の1～6の各文の[]に入れるのに最も適当な言葉を、後のア～カから選び、記号で答えなさい。ただし、同じものはくり返して使えません。

- 1 サッカーの試合で [] を取って、格下の相手に負けてしまった。
2 私は英語の実力ではかれに [] を取ることはない。
3 母親の [] を取って、臨時のおこづかいをせしめた。
4 かれの音楽の才能はかなりすばらしいもので、やがてこの世界で [] を取るだろう。

- 5 わずかな言いまちがいののに、 [] を取られて、ついいらしてしまった。
6 医者になったわが子に [] を取ってもらうなんて、親としてこの上ない喜びだ。

ア あげ足 イ きげん ウ 天下
エ ひけ オ 不覚 カ 脈

七 後の「条件」にしたがって、次の1～3の漢字しりとりを完成させなさい。

- 1 発 A [] A [] X [] X [] Y [] Y [] B [] B [] 地
2 完 A [] A [] X [] X [] Y [] Y [] B [] B [] 育
3 正 A [] A [] X [] X [] Y [] Y [] B [] B [] 節

〔条件1〕 A・Bは二回とも音読みです。読み方は変わってもかまいません。

〔条件2〕 Xの一回目、Yの二回目は音読みです。

〔条件3〕 [X][Y]は、「昨日」(きのう)、「時計」(とけい)のよ
うに、熟語としての特別な読み方をする場合のある組み合
わせです。

〔条件4〕 Xは次の五字から選びなさい。

下 果 眼 清 今

〔条件5〕 [X][Y]の熟語としての特別な読み方の最初の一字は、
「へ・く・け・し・め」のうちのいずれかです。

〔例〕 乗 A [] A [] X [] X [] Y [] Y [] B [] B [] 術
〔答え〕 A「降」 X「下」 Y「手」 B「芸」

(「下手」の特別な読み方は「へた」)

受験番号

平成三十年度

灘中学校入学試験問題

国語

一日目

三枚のうちの三枚目

◎解答に字数制限のある場合、句読点などの記号も字数に数えます。

二

問八	問七			問六	問五		問四	問三	問二		問一	
1	3	2	1		Y	X			II	I		
2												
3												
4												
5												
6												

一

七

3	2	1	例
A	A	A	A
			降
X・Y	X・Y	X・Y	X・Y
			下
			手
B	B	B	B
			芸

六

1
2
3
4
5
6

五

1
2
3
4
5
6

四

4	3	2	1

三

4	3	2	1